

大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

1 大阪湾諸港における国際コンテナ貨物の取扱いの概要と特徴

- ・大阪湾諸港の国際コンテナ取扱量は、大阪港、神戸港が突出して多く、次いで水島港、高松港等の順である。
 - ：大阪港は、輸入貨物が圧倒的に多く、移出入の取扱いは、神戸港の半分以上にとどまっている。
 - ：神戸港は、輸出入貨物が均等で、移出入貨物の一定量を扱っている。
- ・大阪港と神戸港の輸出入貨物は、輸出入別にその品目割合が異なっている。
 - ：大阪港輸出→金属機械工業品、特殊品、化学工業品、雑工業品の順
輸入→雑工業品、金属機械工業品が大半を占めている
 - ：神戸港輸出→金属機械工業品、化学工業品、軽工業品、雑工業品の順
輸入→農林水産品を含み、各種品目を比較的均等に取り扱っている
- ・大阪港と神戸港の輸出入貨物は、航路別の扱い量が異なっている。
 - ：欧州北米航路 →ほとんどが神戸港扱いである
 - ：韓国航路 →両港とも一定割合があり、大阪港の取扱いが輸出入ともに大きい
 - ：中国・台湾航路→輸出で神戸港が多く、輸入では両港とも同程度である。
- ・コンテナの詰め・取出し場所については、ほぼ両港とも同様の傾向で、ふ頭内外で概ね半々の割合である。
 - ：大阪港 →輸出入とも、ややふ頭外が多くなっている
 - ：神戸港 →輸出はふ頭内、輸入はふ頭外がやや多くなっている

2 大阪港、神戸港の国際コンテナ貨物の背後圏（輸出入別）の概要と特徴

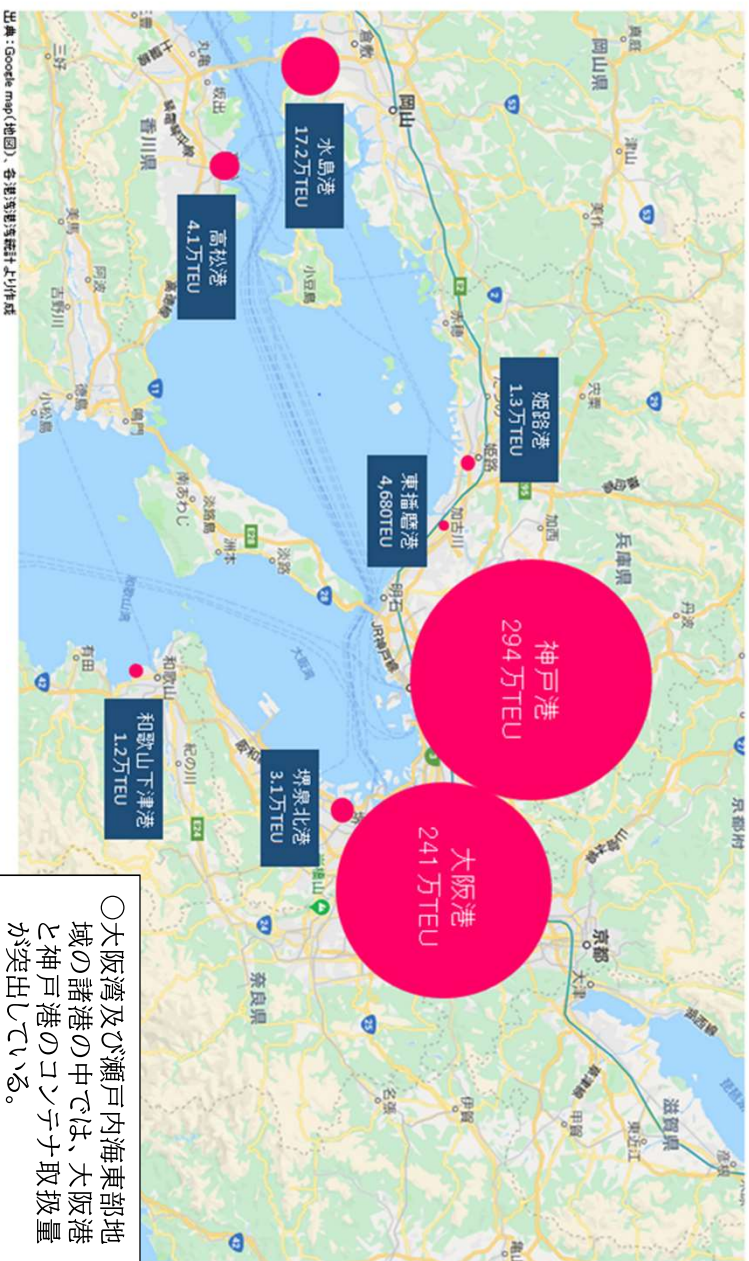
- ・大阪港は、基本的に関西圏を背後圏としている貨物の取扱いが多い
- ・神戸港は、関西圏及び中国四国及び九州北部方面等のより西側の地域を背後圏としている。

注：次ページ以降の図については、港湾統計及び全国輸出入コンテナ貨物流動調査（H30年）によった。
：港湾統計の取扱量は年量であり、全国輸出入コンテナ貨物流動調査の取扱量は月量(11月の1か月の実績)である。

参考資料4-1 大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

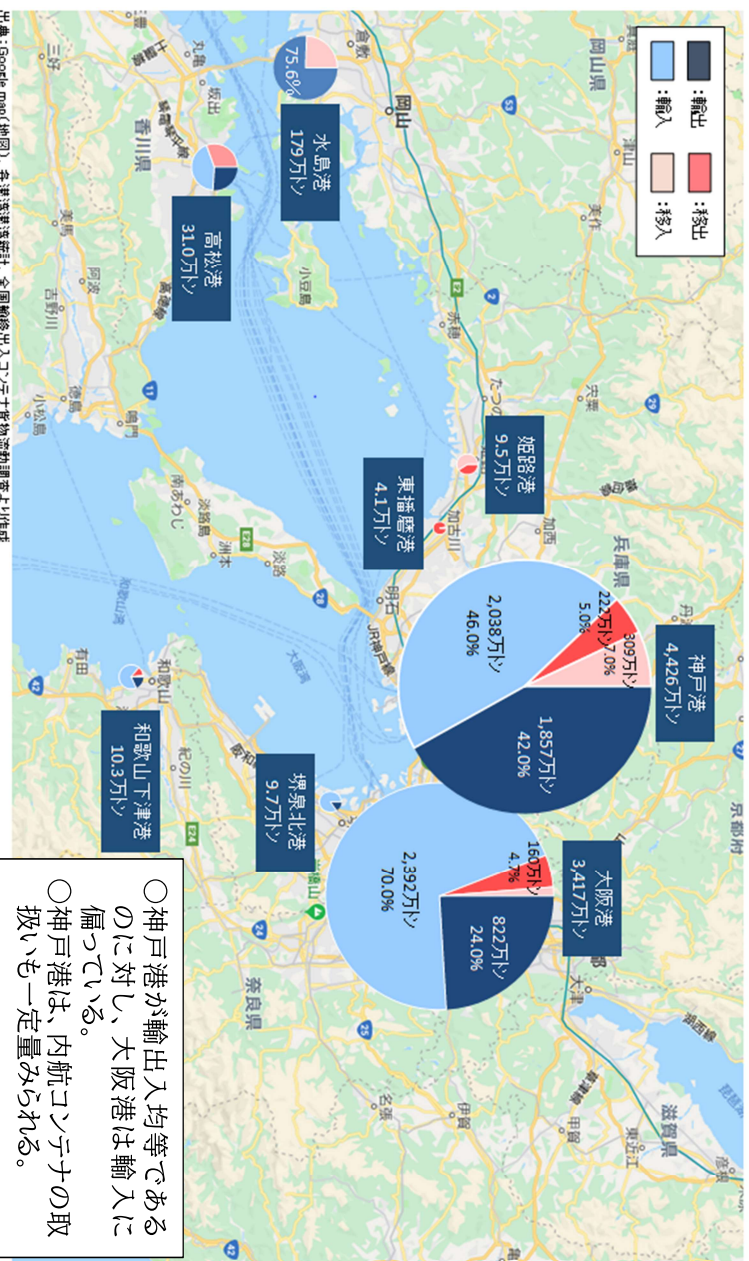
【大阪湾諸港のコンテナ貨物の取り扱い状況】

大阪湾周辺のコンテナ貨物量取扱状況 — 各港湾のコンテナ貨物量 —



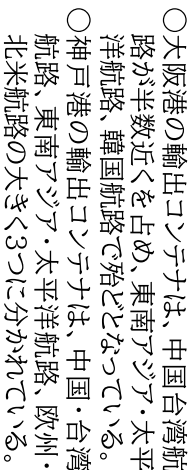
○大阪湾及び瀬戸内海東部地域の諸港の中では、大阪港と神戸港のコンテナ取扱量が突出している。

大阪湾周辺のコンテナ貨物量取扱状況 — 各港湾の輸移出入別コンテナ貨物量 —

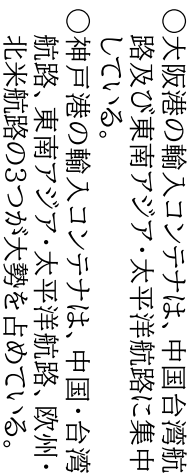


○神戸港が輸出入均等であるのに対し、大阪港は輸入に偏っている。
○神戸港は、内航コンテナの取扱いも一定量みられる。

—各港湾の航路別コンテナ貨物量（輸出）—

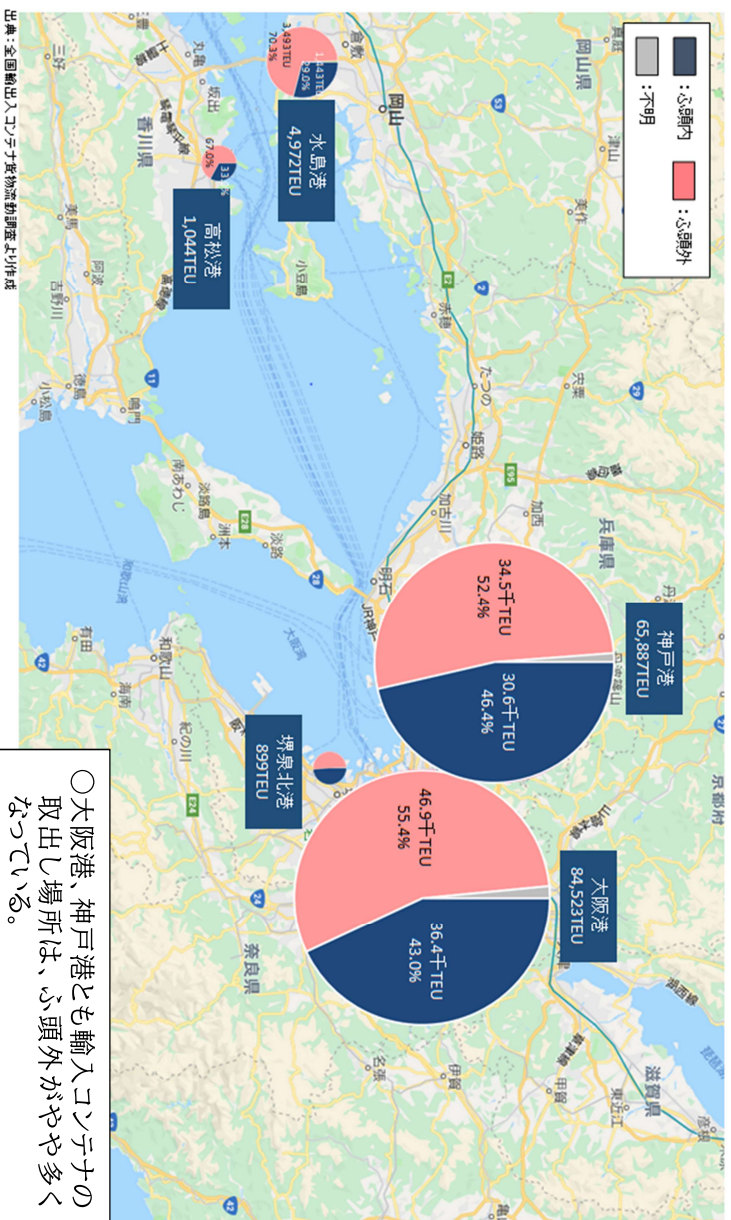


—各港湾の航路別コンテナ貨物量（輸入）—



大阪湾周辺のコンテナ貨物量取扱状況

ー各港湾のコンテナ取出し場所（輸入）ー

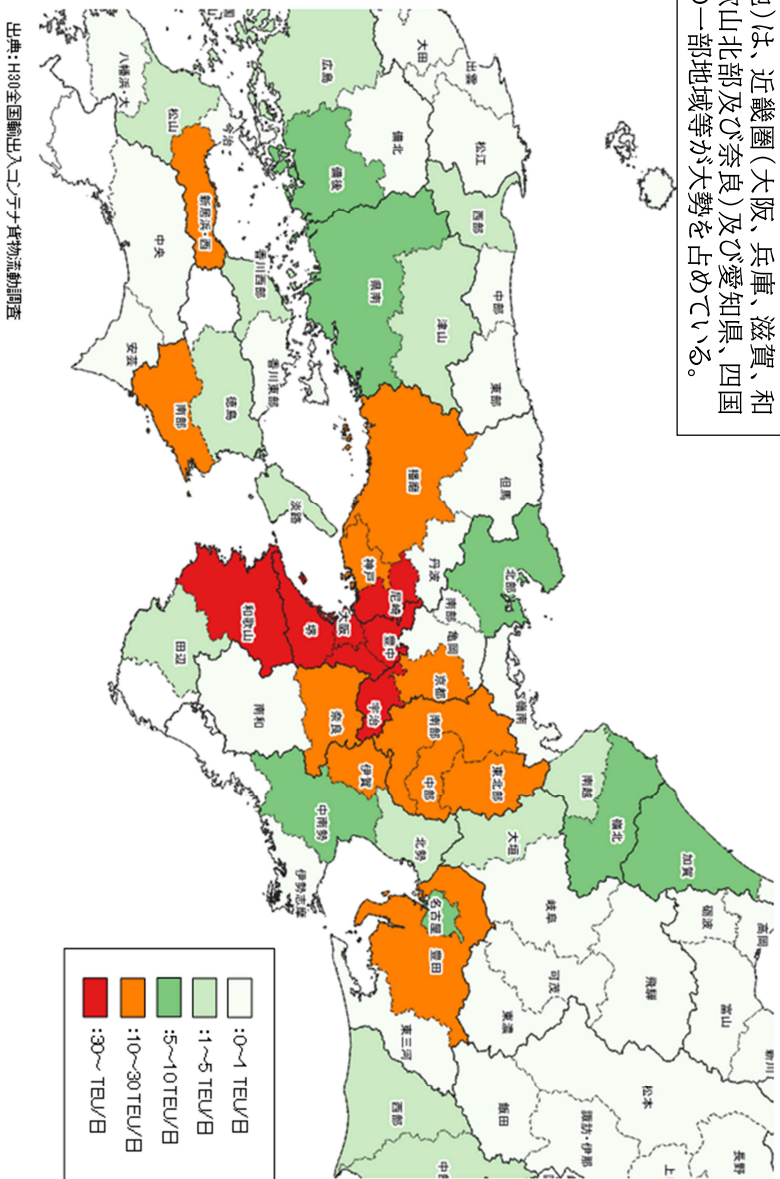


参考資料4-1 大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

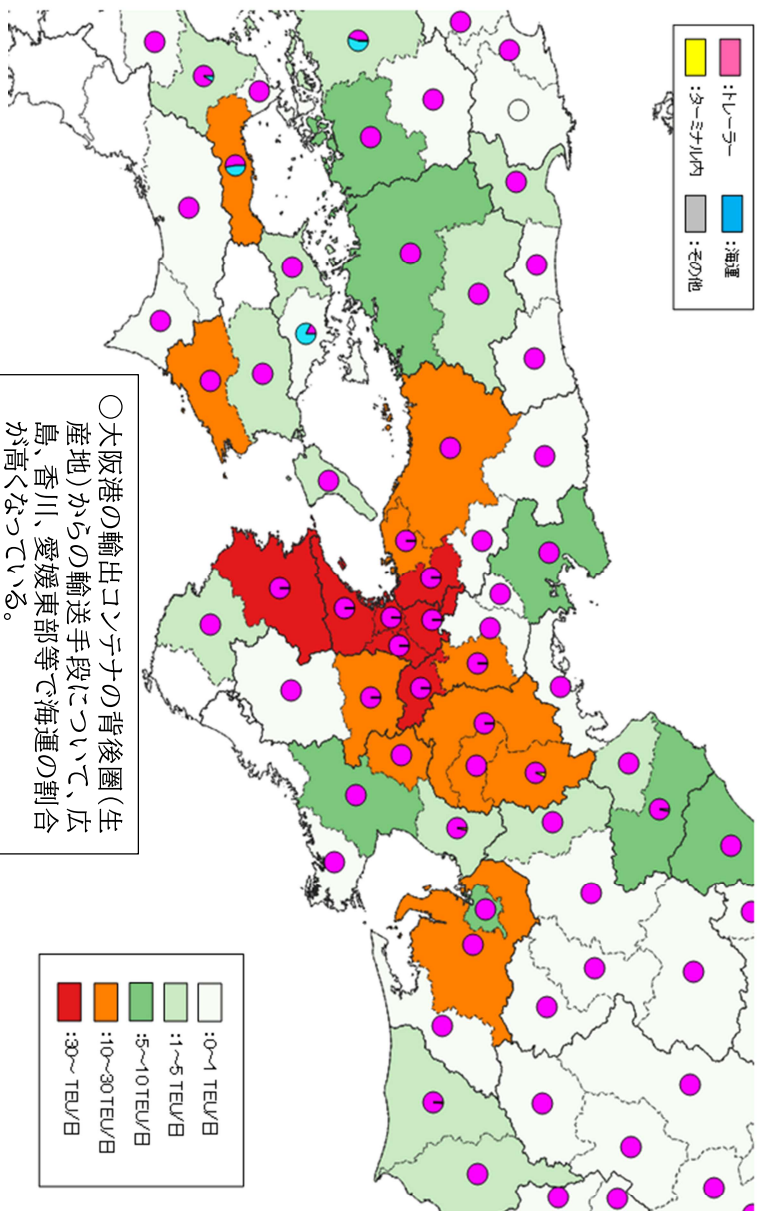
【大阪港の背後圏、背後圏別輸送手段 輸出】

大阪港 コンテナ貨物 背後圏 (輸出)

○大阪港の輸出コンテナの背後圏(生産地)は、近畿圏(大阪、兵庫、滋賀、和歌山北部及び奈良)及び愛知県、四国の一部地域等が大勢を占めている。



大阪港 コンテナ貨物 輸送手段 (輸出)

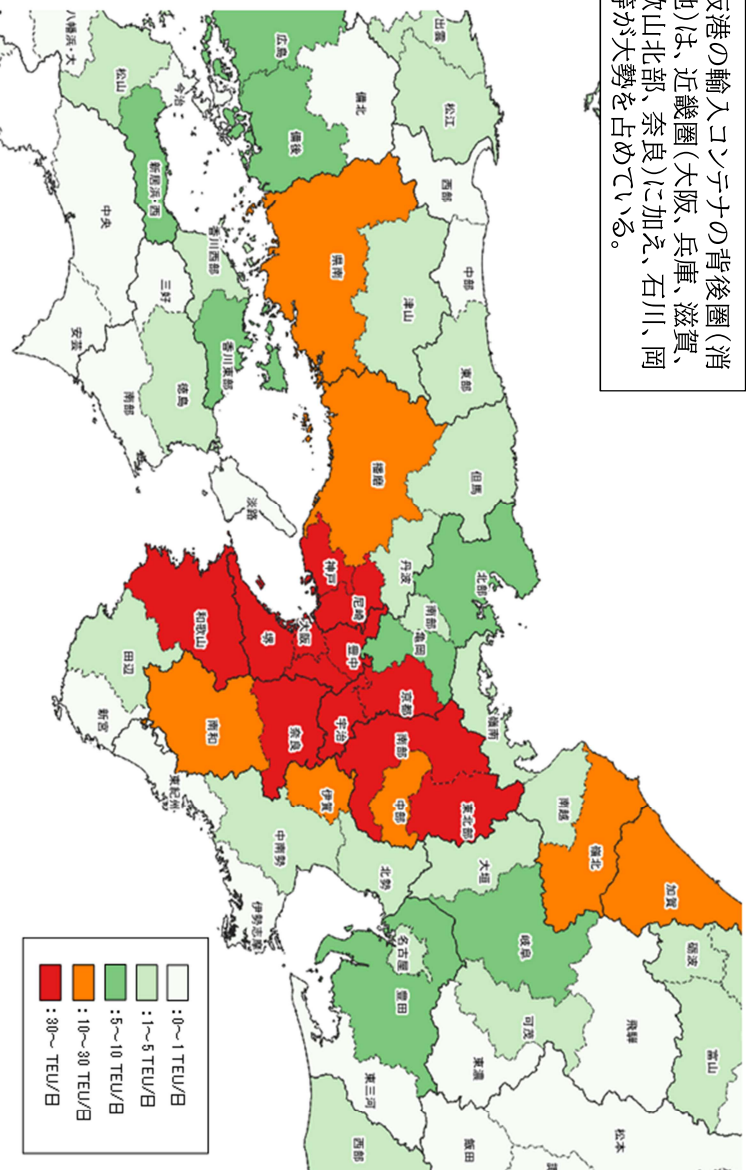


参考資料4-1 大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

【大阪港の背後圏、背後圏別輸送手段 輸入】

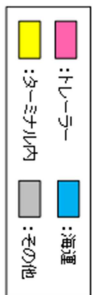
大阪港 コンテナ貨物 背後圏 (輸入)

○大阪港の輸入コンテナの背後圏(消費地)は、近畿圏(大阪、兵庫、滋賀、和歌山北部、奈良)に加え、石川、岡山等が大半を占めている。

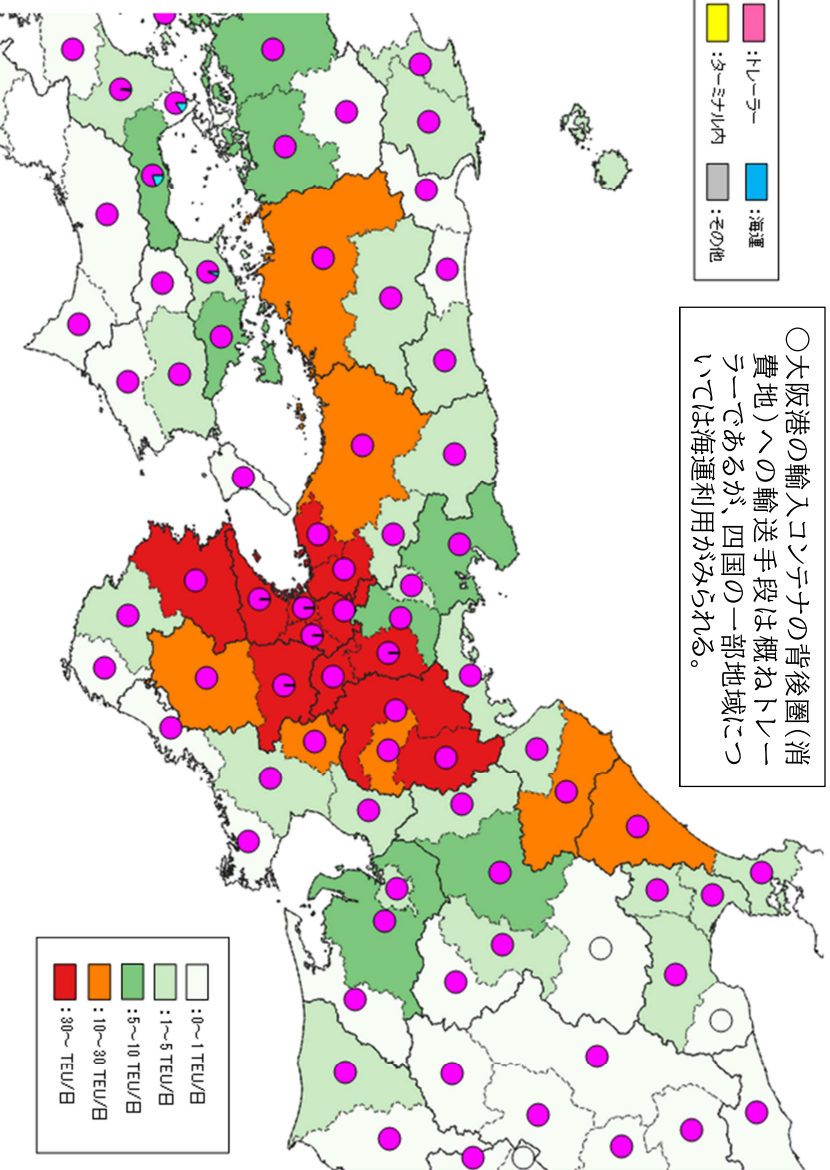


出典：H30全国輸出入コンテナ貨物流動調査

大阪港 コンテナ貨物 輸送手段 (輸入)



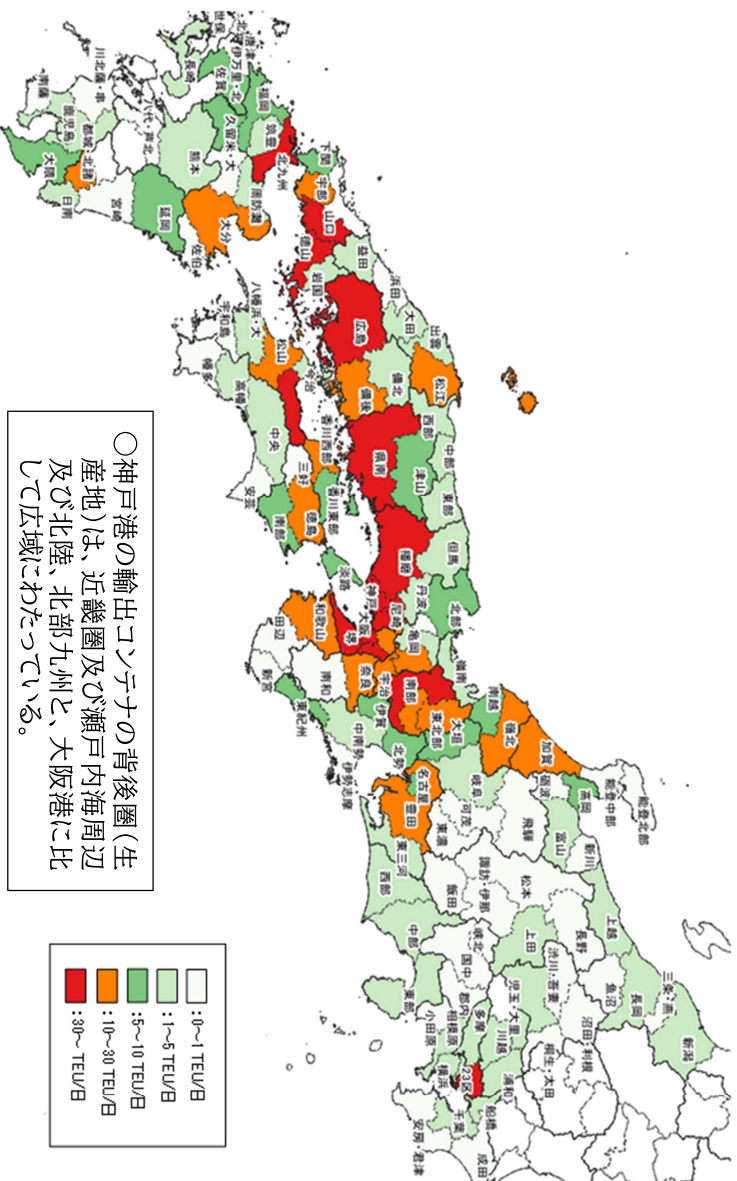
○大阪港の輸入コンテナの背後圏(消費地)への輸送手段は概ねトラックであるが、四国の一部地域については海運利用がみられる。



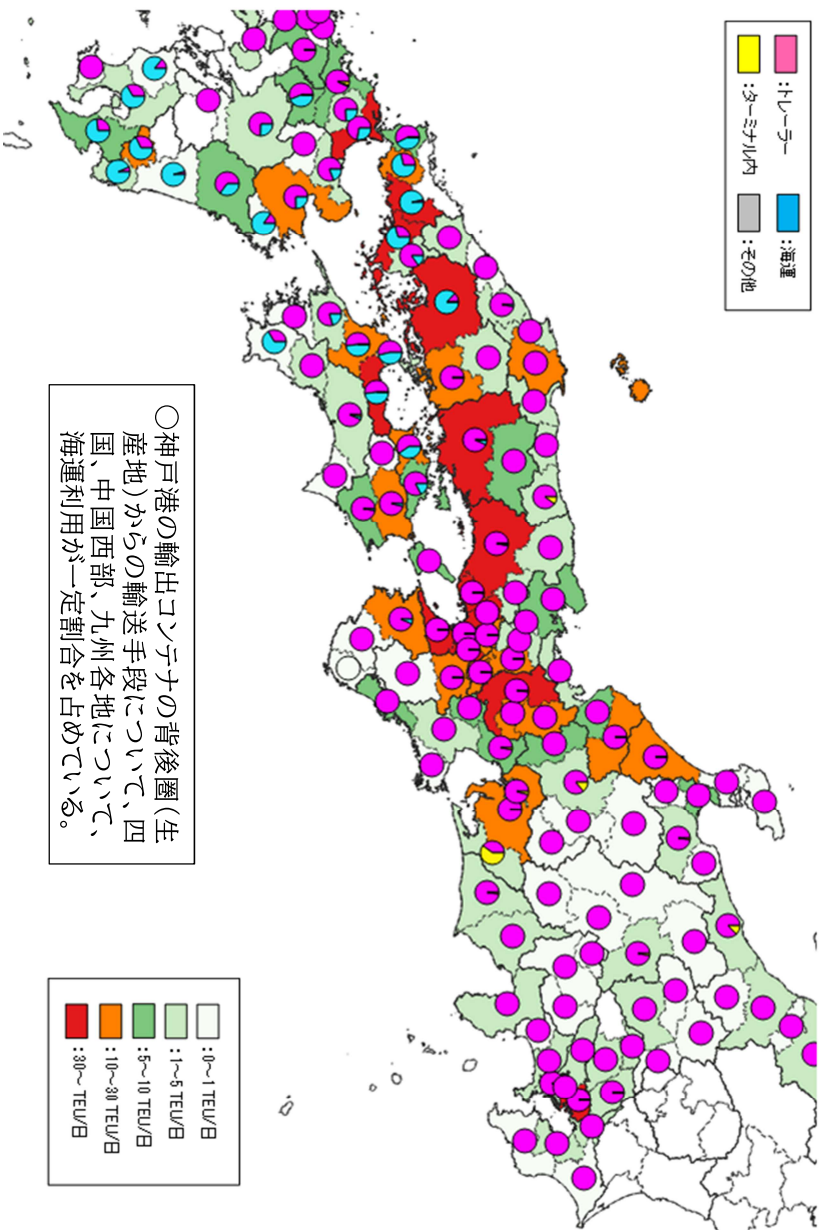
参考資料4-1 大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

【神戸港の背後圏、背後圏別輸送手段 輸出】

神戸港 コンテナ貨物 背後圏 (輸出)



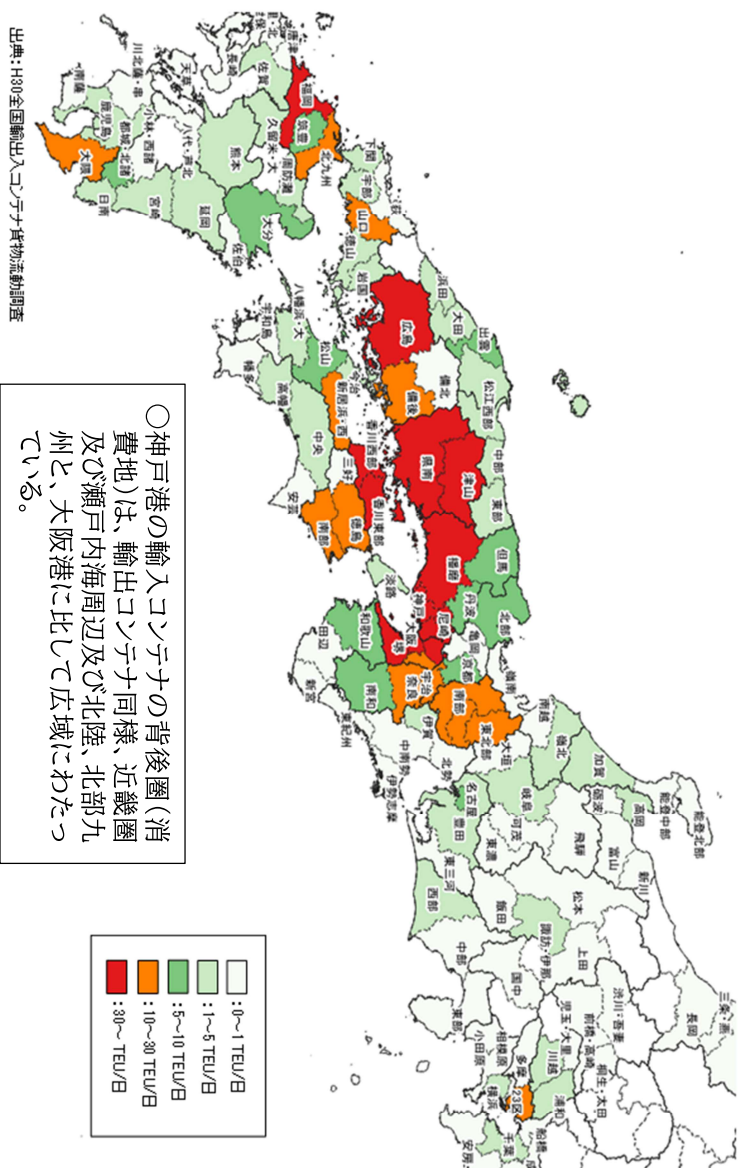
神戸港 コンテナ貨物 輸送手段 (輸出)



参考資料4-1 大阪湾諸港及び阪神港の国際コンテナ取扱の状況

【神戸港の背後圏、背後圏別輸送手段 輸入】

神戸港 コンテナ貨物 背後圏 (輸入)



神戸港 コンテナ貨物 輸送手段 (輸入)

